登別中だより

体力向上に向けたスポーツ鬼ごっこの取組（３年）

【教育目標】すすんで学び 正しく判断する(知)　思いやりを持ち きびしさに耐える(徳)　命を大切にし 心身を鍛える(体)　　令和４年12月23日発行　No.9

「積み重ねるということ」

校長　寺　岡　　弘

長い２学期が終わりました。明日から２３日間の冬季休業日になります。常にコロナ対応に悩みながらの毎日でしたが、何とか無事に２学期を終えることができました。ひとえに保護者の皆様方、地域の皆様方のお力添え、また子どもたちの頑張りのおかげと感謝しています。ありがとうございました。

さて、世の中に目を向けますと、つい先日２０２２サッカーワールドカップが感動の中、終了しました。日本はベスト１６と過去の記録を塗り替えられませんでしたが、死のグループと呼ばれたリーグ戦で、強豪国を打ち破り、グループリーグを１位で勝ち上がりました。その中でもスペインとの熱闘で、「奇跡の１ｍｍ」と言われた、三笘選手の「最後まであきらめない」姿が感動を呼びました。多くの人があのぎりぎりのプレーに魅了されたのではないでしょうか。あのプレーは気持ちだけではできるものではなく、きっと今までに何度も何度も繰り返し練習してきたことの積み重ねがあってのことだと思います。

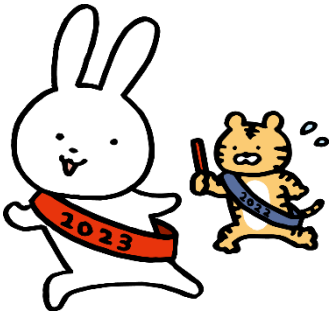
19 日の道新で、この「1ｍｍ」のことを元プロ野球日本ハムコーチの白井一幸さんが書いていました。

私はこの１ミリの差を生んだのは、まさに実力であり、日ごろ積み上げてきた取り組みの成果だと思います。勝敗を分けるわずかな違いは偶然ではなく、必然だからこそ毎日努力を積み重ねるのです。同じダッシュをするのでも、一歩目からゴールまで全力で駆け抜けるのか、どこかで抜いてしまうのかでは違いが生まれます。このわずかな違いを毎日毎日、毎年毎年繰り返していけば大きな違いになります。意識の持ち方と取り組み方の違いが、勝敗を分ける分岐点になるのです。

積み重ねの大切さをプロの視点から伝えてくれています。積み重ねと言えば、本校の伝統芸能「熊舞」もそうです。今年度、熊舞は御輿の復活、駅前公演、登別イオン前講演と、（地獄まつりは中止となってしまいましたが）演舞する場面が多くありました。その中で子どもたちの活躍を多くの人に見てもらえることができました。あわせて、地域の方々の温かい気持ちも伝わってきました。本当に感謝です。その演舞に至るまでには地道な練習がありました。失敗にもくじけず、粘り強く取り組む姿がいつもありました。全ての演舞を終えた３年生の満足そうな表情は忘れられません。後に続く２年生も、３年生の思いをしっかり引き継いでいます。残念ながら引継ぎ式は２月に延期になってしまいましたが、練習での頑張りは立派でした。２月の引継ぎ式ではきっと素晴らしい熊舞を披露してくれるに違いありません。来年度もしっかり登別中学校の伝統を引き継いでいってくれそうです。

学校生活では積み重ねが大切なことが数多くあります。生徒たちにも様々な場面で伝えていきたいと思います。ご家庭でも励ましの言葉をお願いします。

最後に来年の話です。来年の干支は「癸卯（みずのと　う）」です。調べると、「癸」は雨や露、霧など、静かで温かい大地を潤す恵みの水のこと。十干の最後にあたる癸は、生命の終わりを意味するとともに、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しているそうです。さらに「卯」は穏やかなうさぎの様子から安全、温和の意味。また、うさぎのように跳ね上がるという意味があり、卯年は何かを開始するのに縁起がよく、希望があふれ、景気回復、好転するよい年になると言われているそうです。この２つをまとめると、2023 年「癸卯」の年は、「癸」と「卯」の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると考えられます。（なんと素晴らしい年！）ぜひ飛躍の年にしてほしいと思います！



来る「卯年」が皆様にとって良い年であることを祈念し、また、日頃の感謝とこれからのご支援をお願い申しあげ、この一年のお礼に代えさせて頂きたいと思います。本当にありがとうございました。それでは、良いお年を…。

JICA 国際協力出前講座　～遠くて近い国ブラジル～　講師　津田　晴香さん

１１月２５日（金）に、登別市の JICA 国際協力出前講座がありました。ブラジルに日本語教師として派遣されていた津田晴香さんが講師としてお話してくれました。津田さんが派遣された町は奥アマゾンで、海みたいなアマゾン川がすぐそばにある小さな町だったそうです。食材も１週間に一度の市場で、魚や肉を購入していたそうです。そんな派遣先のブラジルのクイズがありました。体育館を４つに分けて、各個人が移動する４択クイズです。第一問。「ブラジルのあいさつは次のどれ？」①ハイ　②ナイ　③サイ　④オイ　生徒が自分の思った番号に移動します。正解は④、「オイ」でした。正解した生徒たちはガッツポーズ。すぐに「オイ」「オイ」とお互いに声をかけ、楽しそうにリアクションしていました。さすがノリのいい登中生。講師の津田さんも生徒の反応に大喜びでした。第２問。「ブラジルにある日本のチェーン店は次のどれ？」①はま寿司　②丸亀製麺　③すき家　④モスバーガー　正解は③、「すき家」でした。物価も同じくらいで、おいしく食べられているそうです。

楽しいクイズの後は日本語教師としての話でした。その話の内容は…。

ブラジルには、日本語と日本文化を教えるために行きました。ブラジルは日本を感じるものにあふれています。日系人も多く、その日系人が日本文化を残したいけれども、日本語がわからないので、日本語教師の必要性が生まれました。ブラジルの日本語学校では驚くことがいっぱいあります。①じゃんけんがない。だから決めるのに時間がかかる。②教科書は先生の手作り。先生方が印刷して閉じて作る。③ノートを斜めにおいて書く。④アドリブで何でもやっちゃう。文化祭も運動会もぶっつけ本番。そんなブラジルの人ですが、意外にも日本語学校の生徒はみんな恥ずかしがり屋で全然仲良くなれませんでした。言語、生活、文化の違う人とどうやって仲良くなるか？を考えて、出た答えは「好きなものを知ること」。その人を知り、距離を詰めていきました。違う文化の人、考え方の人に出会ったらどうするか。キーワードは「それもありだよね」です。一回相手の言うことを聞き、「それもありだよね」と受け止め、それから自分の意見を言うことにしています。
「外国人だからと言って、もう無理、わからない、と否定して決めつけてしまうのはもったいない。」「違いばかりではなく同じところを探そう。そうしたら、その国のことが好きになります。」これが理解のポイントです。

外国の文化を受け入れるために「違いばかりではなく、同じところを探す。また、違っていてもそれもあり。」と考えることは、素晴らしいと思いました。最初から異文化を否定したら理解できませんよね。インターネットで身近になった外国ですが、この先、国際社会に飛び立つ中学生にとっては大切なことを学ぶ機会になりました。昨年は、タンザニアと日本の文化の違いなど、普段聞くことのできない話を興味深く聞くことができました。さて、来年度はどこの国の話を聞けるでしょうか。楽しみです。

学校への連絡や相談、登下校時の様子で気になること、その他どんなことでも登別中学校（83-1029）へお知らせください。
平日朝７時半から夕方４時半まで受け付けています（その他の時間帯は留守電対応）。
※12 月 29 日（木）～1 月 3 日（火）は学校閉庁日になっており、平日でも学校にはつながりません。ご承知おきください。
＜関係機関への相談＞
○市教育委員会相談電話（85-0085 平日朝９時から夕方５時）
○子ども相談支援センター電話相談
（0120-3882-56 毎日 24 時間対応）
○メール相談 tsunagu@city.noboribetsu.lg.jp　※返答に５日ほどかかります。

1月

１日（木）　元旦（学校閉庁日　～３日）
９日（月）　成人の日
１２日（木）　ウインタースクール③
１３日（金）　ウインタースクール④
１４日（土）　吹奏楽部ｿﾛ・ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙｺﾝﾃｽﾄ（室ガス C）
１６日（月）　始業式（給食なし）職員会議
１８日（水）　３学年末テスト　専門委員会
あいさつ一声運動
２０日（金）　大谷室蘭推薦入試
２３日（月）　駒沢苫小牧推薦入試
２４日（火）　北海道栄推薦入試
２６日（木）　年度末反省会議①
２７日（金）　年度末反省会議②
特別支援学校入試